

井筒屋だより

第四十一号
令和六年
三月号

顕彰碑と測量入門書

友五郎の足跡をより身近に

井筒屋の交流広場にこのほど、小野友五郎の功績をたたえる顕彰碑が建てられました。稲田横顔のレリーフと功績を記した石が埋め込まれています。これは、笠間イオンズクラブ創

立50周年記念事業で制作、市に寄贈されたものです。小野友五郎といえ幕末の笠間藩士で、数学や天文学、航海術に優れていて、咸臨丸の航海長として日本人初の太平洋横断の航海を行ったほか、明治

維新後は、鉄道建設や数学教育の普及など、日本の近代化に貢献しました。当館2階には「小野友五郎を伝えてゆく会」が作成した展示コーナーがあります。友五郎の足跡を、より身近に感じることができましょう。1階では、咸臨丸をデザインしたトートバッグ等も販売中です。ぜひ、ご来場ください。



井筒屋前に設置された顕彰碑

『量地図説』の現代語訳を販売
江戸時代の測量技術書『量地図説』を現代語に訳した『量地図説を読む上』を、このほど、小野友五郎を伝えてゆく会・副会長の今泉寛氏が出版。井筒屋で販売中です。『量地図説』は、嘉永5(1852)年に笠間藩士の甲斐駒蔵廣永らによって著された測量の入門書。今泉氏は「小野友五郎を知ってもらうだけでなく、当時の時代背景や文化にも興味を持ってほしい」と話しています。価格は968円です。



斐駒蔵廣永らによって著された測量の入門書。今泉氏は「小野友五郎を知ってもらうだけでなく、当時の時代背景や文化にも興味を持ってほしい」と話しています。価格は968円です。



トートバッグ

3月のイベント

アニメーション ホントにあった天狗のはなし
～岩間山の天狗伝説とその先～

日時：3月16日(土) 午後3時(開場2時30分)
出演：笠間稲荷ばやし保存会 吉福社中 他

天狗伝説アニメの上映と笠間稲荷囃子と吉福社中の神楽を披露します。



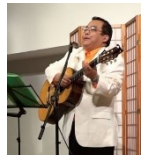
料金：2500円(一般) 小学生1000円(未就学児無料)

万葉亭小太郎の井筒屋の夜会
～二刀流を楽しむ会～

日時：3月23日(土)午後6時30分(開場6時)
出演：万葉亭小太郎(落語)

寝床家小道楽(落語) ペロ中島(ギター漫談)

万葉亭小太郎が二刀流の男をゲストに迎え、たっぷりとお笑いをお届けします。



木戸銭：500円

かさま歴史交流館井筒屋 笠間市笠間 987 電話 0296-71-8118

開館時間 午前9時～午後9時 月曜日休館(月曜日が祝日のときは火曜日が休館となります)

～このお便りでは、井筒屋の日々の様子やイベントの開催予定等をお知らせしています～



歴史こらむ

花まつりの六堂まいり

4月8日はお釈迦様の誕生日である「花まつり」。古くから笠間では、新仏(しんぼとけ)を持つ者が、この日に6カ所に安置された仏像をお参りする「六堂まいり」の風習があった。

6体の仏像とは、①楞嚴寺(片庭)の観音大士、②岩谷寺(来栖)の薬師如来、③阿弥陀院(廃寺)の地藏菩薩、④弥陀堂(石寺)の弥勒菩薩、⑤花蔵院(廃寺)の毘沙門天・多門天、⑥蓮台寺(福田)の不動明王のこと。阿弥陀院の地藏菩薩は、現在は城里町の徳蔵寺に移されており、花蔵院の毘沙門天・多門天像は現存していないが、寺があった愛宕町の路地には、「吞龍様」と呼ばれるお堂があり、毘沙門天像の掛け軸が納められている。



六堂の一つ、片庭の楞嚴寺

を3年間行うことで、新仏の供養となった。のちに、3人が一度に回れば、3年分参拝したことになったという。この起源は不明だが、元禄3年に成立した『連台寺不動縁起』の中に記されているので、かなり古くからあったようだ。今も、この風習は守られていて、各寺では、訪れた人のために、甘茶や線香を用意したり、仏像の御開帳を行うところもある。昔は1日かかった道のりも、今は車で2時間程度。六堂をめぐる春の訪れを感じてみてはいかがだろうか。(雄)

【井筒屋ニュース】

朝の会と夜会
落語を堪能

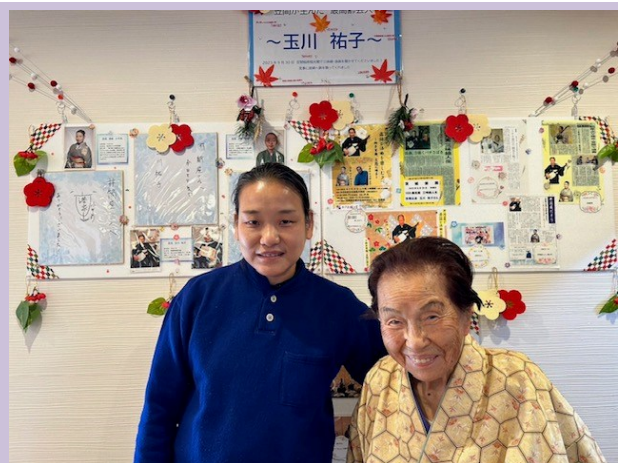


ギターと尺八
コラボで演奏

尺八とギターのコラボによるデュオコンサートが開かれ、和洋の作品が演奏されました。



万葉亭小太郎の「井筒屋の夜会」と「井筒屋朝の会」が開かれ、江戸情緒たっぷりの落語が披露されました。



かさま応援大使に就任
玉川祐子さん、ますますお元気!

笠間出身で101歳の現役曲師・玉川祐子さんがこのほど、かさま応援大使に就任されました。委嘱状の交付式のために笠間を訪れた祐子さんは、井筒屋にも立ち寄り、自らの紹介コーナーを見て、笑顔になっていました!

【後記】

この春、中学生になる子どもたちが、小学校に入学したのは平成30年の4月。このとき、「かさま歴史交流館井筒屋」がオープンしました。

それ以来、井筒屋は子どもたちの行事にも数多く利用され、子どもたちが参加する独自のイベントも何度も開いてきました。新中学生たちの小学校時代の思い出の一つに、井筒屋が残っているなら、こんなに嬉しいことはありません。

この春、井筒屋は7年目の活動となります。小学生から、中学生になったような気持ちになります。子どもたちだけでなく、いろんな世代の方々に、素敵な思い出を残せるような施設になっていきたくと、改めて感じていきます。(雄)